医療AIサークルのすゝめ

データ駆動イノベーション推進本部
新岡 宏彦

近年、医療分野でもAIの活用が急速に広がっています。一方で、AIを実際に使いこなし、さらに自ら研究や開発まで行える人材は、まだ決して多くありません。特に医学生や若手医師にとっては、「興味はあるけれど、どこから勉強すればよいのかわからない」「プログラミングや数学を本格的に学んでいないので敷居が高い」と感じることも多いと思います。

そこで私たちは、医療AIに興味を持つ学生が気軽に集まり、一緒に学び、実際に手を動かす場として「九州大学医学部情報研」という医療AIサークルを運営しています。サークルでは、AIコンペティションへの参加、医療データを用いた研究、統計やプログラミングの勉強など、それぞれの興味や習熟度に応じた活動を行っています。

こうした活動を続けていると、現在はAIを学ぶための環境が、数年前とは大きく変わったことを実感します。高性能な計算環境や最先端のAIモデルを、個人でもほとんど費用をかけずに利用できるようになりました(※)。さらにChatGPTをはじめとする生成AIの登場によって、プログラミング経験の少ない学生でも、自分のアイデアをコードとして形にすることが容易になりつつあります。

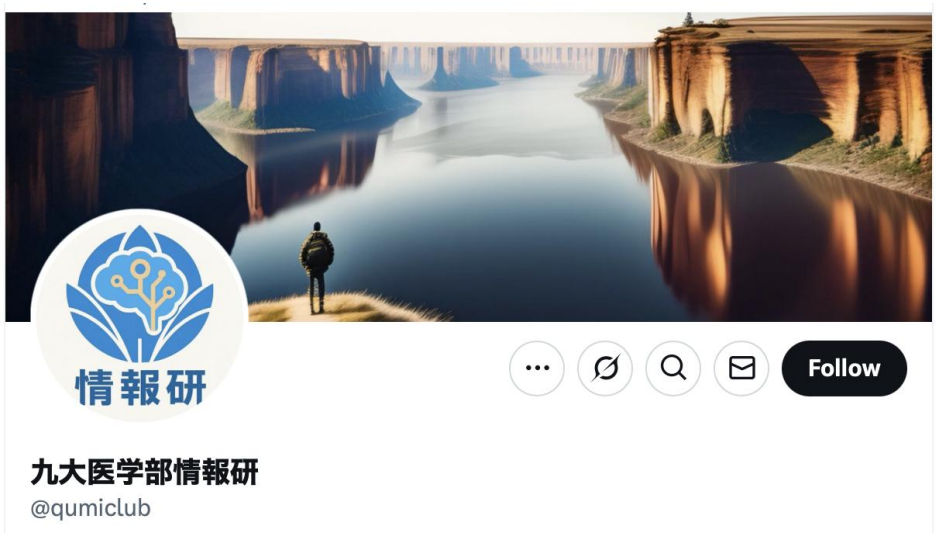
もちろんAI研究には専門的な知識が必要です。しかし、その入口までの距離は驚くほど短くなりました。ラップトップPC一台から始め、コンペや研究を通して実践的に学び、数年のうちに最先端の研究へ参加することも可能です。

医療AIには、従来の研究分野とは少し異なる「人が育ちやすい環境」が整いつつあるのではないか――。そんなことを考えながら、私たちは日々サークル活動を続けています。

次ページでは、実際にどのようなメンバーが、どのような活動を行っているのかをご紹介します。

(※)患者情報を含む医療データを外部クラウドサービスで扱う場合には、所属機関の規程、研究倫理および情報セキュリティ上のルールに従う必要があります。

九州大学医学部情報研

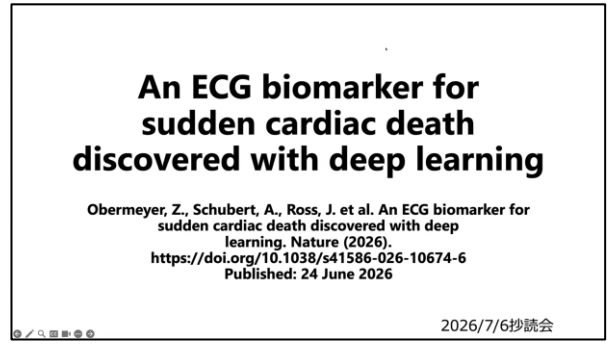


#部員数
2026年8月時点の部員数18名
(新入1年生x6名, 薬学部x1名、芸工M1x1名、生命科学x1, 他大学生x1名)

#活動内容
輪読回、抄読回、Kaggleなどのデータ解析コンペへの参加
統計検定やG検定E資格など資格の取得
(実績：統計検定準一級2名、Kaggle銀メダルx2, 銅メダルx1, 学会発表x3)

HP: https://qumiclub.github.io/club-welcome-page/
X: https://x.com/qumiclub
Instagram: https://www.instagram.com/miclub.ku/

抄読回の様子







なぜ医学生でも高いデータ解析技術を身につけることができるのか？

KaggleやGoogle colaboratoryにてGPUを用いた計算が無料でできる。
ラップトップPC一台あれば最先端のモデルを用いることも可能。



実験系ではないので怪我や装置を壊すリスクなどを気にする必要がない。

教科書が豊富で1, 2年前ぐらいまでの知識が体系的にまとまっている。



ネット上に情報が豊富。
論文実装のコードが公開されている。
コンペに参加することでOJTのような形で実装を学ぶことができる。

ChatGTPなどLLMの急速な発展
コードをLLMに書かせることで、誰でもAI開発が可能。

誰でもほとんどお金がかからず独学が可能であり、
トップ集団に追いつくための高速道路が整備されている。